

演題名：幹細胞移植後に植皮した鼠径部皮膚から発症した二次口腔がんの一例
谷口弘樹、大原賢治、宮本大模、石橋謙一郎、加藤伸一郎、渋谷恭之

名古屋市立大学大学院医学研究科生体機能・構造医学専攻口腔外科学分野

Hiroki Taniguchi, Ohara Kenji, Hironori Miyamoto, Kenichiro Ishibashi,
Shinichiro, Kato, Yasuyuki Shibuya

Department of Oral Maxillofacial Surgery, Nagoya City University
Graduate School of Medical Sciences, 1 Kawasumi Mizuho-cho Mizuho-ku
Nagoya, Aichi, Japan

【緒言】

骨髄間葉系幹細胞の移植療法（HSCT）は白血病の有効な治療法の一つである。しかしながら、その副作用に、慢性移植片対宿主病（GVHD）があり二次がんの発症率を増加させ、口腔癌は2番目に多い。われわれは、鼠径部からの植皮した皮膚から発症した二次口腔がんを経験したため、考察を加えて報告する。

【症例の概要】

30 歳、女性。急性骨髄性白血病に罹患し、化学療法および HSCT を受け完全緩解した。治療後慢性 GVHD を発症し、免疫抑制剤による治療および当科での口腔ケアが実施され、治癒した。以後、当科および血液内科で経過観察をした。48 歳時に左側舌横部の歯との接触痛を自覚し、組織試験採取をしたところ、上皮内癌の診断であった。全身麻酔下での舌部分切除を実施した。47 歳時の経過観察時に左側舌横部表面が粗造であったため組織試験採取を実施したところ、上皮内癌の診断となり、舌部分切除および鼠径部からの植皮術を実施した。51 歳時の経過観察時に左側舌横部に植皮した皮膚表面が粗造であったため組織試験採取を実施したところ、扁平上皮癌の診断であった。全身麻酔下で舌部分切除を実施し、切除した創は縫合した。術後約 1 年が経過したが再発は認められない。

【結果（結語）】

植皮後の皮膚から扁平上皮癌を発症した GVHD 患者の一例を経験したので文献的考察を加え報告した。